

I. 2020年3月期 第2四半期 決算総括

%, YoY=前年同期比

**高信頼のNW/システムクラウドサービス提供戦略 着実遂行で増収増益
上半期計画超過・通期見通し上方修正^(*)**

	1H19実績		上期公表	2Q19実績		(新)通期見通し		(旧)通期見通し	
売上高	992.2億円	+8.8%	977億円	493.9億円	+6.5%	2,040億円	+6.0%	2,040億円	+6.0%
売上総利益	152.0億円	+14.6% ^{(*)2}	142億円	78.2億円	+13.1% ^{(*)2}	320億円	+10.4%	314億円	+8.4%
営業利益	33.5億円	+45.7% ^{(*)2}	22億円	19.7億円	+37.8% ^{(*)2}	76億円	+26.2%	70億円	+16.2%
当期利益 ^{(*)3}	17.6億円	+23.6% ^{(*)2}	5.5億円	9.8億円	+11.7% ^{(*)2}	38億円	+7.9%	35億円	△0.6%

◆法人ストック売上^{(*)4} +10.2% 高増収継続

- セキュリティ +19.5% 需要旺盛: SOC・DDoSプロテクション・メール/Webゲートウェイ・仮想デスクトップ等牽引
- 法人モバイル +29.7%^{(*)5} 監視カメラ等の接続需要堅調、フルMVNO機能で差別化推進・SoftSIM導入案件増加
大手産業用デバイスメーカーAdvantechと業務提携
- クラウド +14.4% マルチクラウド戦略展開: 統合運用管理サービス(UOM)機能強化・閉域接続先拡充

◆SI 需要引き続き活況 売上 +15.9% 受注 +4.1%

◆JOCDN 取扱コンテンツ拡大に伴いデータ転送量継続増加、NHKへCDNサービス提供開始

◆DeCurret 取扱高拡大中: 4月 現物サービス開始、8月 証拠金サービス開始・イーサリアム追加

(*)1 配当見通しに変更はありません。(*)2 ドコモ モバイル接続料単価改定に伴うNWサービス原価一括追加計上(4Q18 20.5億円)を本来の帰属期間に配分した前年同期比実績での増益率を記載しております。(*)3 親会社所有者に帰属する当期(四半期)利益を指しております。(*)4 本スライドでの法人ストック売上は、法人インターネット接続(MVNE除く)、アウトソーシング、SI運用保守の合計額で算出しており、WAN売上は含めておりません。(*)5 法人モバイルは、IIJモバイルからMVNEを除外し算出しております。 ※本スライド内の売上は2020年3月期上半期(6か月)を表示しております。

Ⅲ- 2. 2020年3月期 連結業績見通し(変更日:11月8日)

単位:億円

	売上高比 新FY19見通し 19年4月～20年3月	売上高比 FY18実績 18年4月～19年3月	前期比	売上高比 旧FY19見通し 19年4月～20年3月	売上高比 1H9実績 19年4月～19年9月
売上収益	2,040	1,924.3	+6.0%	2,040	992.2
売上原価	1,720 <small>84.3%</small>	1,634.6 <small>84.9%</small>	+5.2%	1,726 <small>84.6%</small>	840.2 <small>84.7%</small>
売上総利益	320 <small>15.7%</small>	289.7 <small>15.1%</small>	+10.4%	314 <small>15.4%</small>	152.0 <small>15.3%</small>
販売管理費等 ^(*1)	244 <small>12.0%</small>	229.5 <small>11.9%</small>	+6.3%	244 <small>12.0%</small>	118.5 <small>11.9%</small>
営業利益	76 <small>3.7%</small>	60.2 <small>3.1%</small>	+26.2%	70 <small>3.4%</small>	33.5 <small>3.4%</small>
持分法投資損益	△5	△3.2	-	△6	△1.3
税引前利益	68 <small>3.3%</small>	58.4 <small>3.0%</small>	+16.4%	63 <small>3.1%</small>	30.4 <small>3.1%</small>
当期利益 ^(*2)	38 <small>1.9%</small>	35.2 <small>1.8%</small>	+7.9%	35 <small>1.7%</small>	17.6 <small>1.8%</small>

売上: 上期超過はSI進行基準計上要因もあり、通期は据え置き

営業利益: 上期利益進展継続と期待するが、ドコモ モバイル接続料単価年次低減率(4Q末改定見込み)の不確定要素を加味

持分法投資損益: DeCurret関連で損失8億円想定、その他損益はFY18同規模想定

配当: 期初計画から変更なし 中間配当:13.50円 年間配当:27.00円

(*1) 販売管理費等は、販売費及び一般管理費(研究開発費を含む)、その他収益、その他費用の合計額を記載 (*2) 当期利益は、親会社所有者に帰属する当期利益及び四半期を表示



日本のインターネットは1992年、IIJとともにはじまりました。以来、IIJグループはネットワーク社会の基盤をつくり、技術力でその発展を支えてきました。インターネットの未来を想い、新たなイノベーションに挑戦し続けていく。それは、つねに先駆者としてインターネットの可能性を切り拓いてきたIIJの、これからも変わることのない姿勢です。IIJの真ん中のIはイニシアティブ

IIJはいつもはじまりであり、未来です。

事業等のリスク

本資料の記載のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、将来の見通しに関する記述に該当します。将来の見通しに関する記述は、現在入手可能な情報に基づく当社グループまたは当社の経営陣の仮定及び判断に基づくものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しています。また、今後の当社グループまたは当社の事業を取り巻く経営環境の変化、市場の動向、その他様々な要因により、これらの記述または仮定は、将来実現しない可能性があります。